

# 早期幼児自閉症男児の遊戯療法

松島恭子・神野雅代

## Psychotherapy for the Early Infantile Autism

KYOKO MATSUSHIMA and MASAYO JINNO

### はじめに

自閉症に関する定義は、様々である。その中で、WHOの用語定義案では、「自閉症は、遅くとも生後30か月以前に症状が顕現する症候群で、視覚刺激・聴覚刺激に対する反応が異常で、通常、話しかけられた言葉の理解に重篤な障害がある。言語発達が遅れていて、発達してきたさいにも反響言語がみられたり、人称代名詞をあべこべに使ったり、文法的構造が幼く、抽象語を使うのが困難であるという特徴がある。また、音声による言葉だけではなく、身振りによる言語を社会の場で使う能力に障害があるのがふつうである。まなざしを合わせたり、社会的な触れ合いや協同遊びをすることを含めた社会的人間関係樹立の障害は5歳以前にもっとも深刻である。また、日常の手順に固執したり、変化に強い抵抗を見せたり、奇妙なものに愛着を示したり、常同的でパターン化された遊びがあったりするような儀式を思わせる行動がみられるのがふつうである。抽象的あるいは象徴的思考や遊びの能力に乏しく、知能の程度は重度の遅れから、正常あるいはそれ以上までの範囲にわたっており、課題の解決は抽象能力や言語能力を必要とするものよりも、暗記力や視覚空間の能力を含む課題の方がすぐれている<sup>1)</sup>。」と、定められている。山中<sup>2)</sup>は、「自閉とは、まさに症児のかかえている根源的な事態、本来自己が成立すべきところに他者が出現してしまう事態、いわば＜自己の未成立＞の事態を辛うじて守るかりそめの自己の示す防衛反応が、他者にうけとられたときに感じるもの」と述べている。

今までに、「DSM-III-R<sup>3)</sup>」「自閉症の特徴チェックリスト<sup>4)</sup>」「H式質問項目<sup>5)</sup>」つくも幼児教室の「発達評価<sup>6)</sup>」「母子関係評価<sup>7)</sup>」「感覚診断の方法<sup>8)</sup>」「精研式自閉児用行動評定表（行動療法用・一般用）<sup>9)</sup>」略して「CLAC-I」「CLAC-II」等、「自閉症

の診断や特徴・発達段階を知る手がかりとなるものが、出されてきた。また、自閉症児を長期間にわたって観察し続ける予後研究がさかんになされた時もあった。しかし、「自閉症」に対する診断基準は、今なお、論じられている。大きく分けると、「自閉症」は、「心因性障害である」あるいは、「部位こそ確定していないが脳すなわち中枢神経系の障害である」という説と、「この両者がお互いに影響を及ぼし合っている」という説の3つがある。このような中で、我々はどうのようにして自閉症児と関わっていけばよいのだろうか。

自閉症へのアプローチの仕方には、心理療法的・行動療法的・治療教育的なものがある。心理療法的な立場をとっている山中<sup>2)</sup>は、自閉症治療論を5つの段階に分けている。それは、1. 積極的配慮を伴った絶対受容の時期、2. 共生的段階と強い攻撃性発現の時期、3. 象徴的遊戯の時期、4. 「母子一体性」の時期とそれに続く言語獲得の時期、5. 社会化の時期であり、「症児の＜共人間的世界＞への復帰および＜自己の成立＞」を目指す。柏木<sup>6)</sup>によれば、「最初に必要なのは愛着対象であり、訓練や罰ではない。後者が有効に作用しうるのは、愛着対象が形成された後、愛着対象によってそれがなされる場合である」という。Tustin<sup>1)</sup>は、「脳に障害があっても、心理療法によってそれが消失する傾向にある」と述べている。具体的で利用しやすく、原因の考慮が不要であり、どこでも、誰にでも可能であるという点で、行動療法は優れている。その適応範囲は、異常行動の除去、攻撃行動および破壊行動の消去、言語行動の確立等に及んでいる。症児ひとりひとりが、それぞれ異なった症状を示し、そのひとりひとりにあった方法が求められ、両親・教師・ケースワーカー・サイコロジスト・学生・医師等の汗と人間的な感覚とに支えられた実践活動を必要とし、全生活を通して行われるのが、治療教育である。その適応範囲は、排尿習慣の形成、交通信号の学習、遊

びの形成、言語訓練等、生活準備行動の訓練である。

筆者らもまた、ひとりひとりの自閉症児に対するアプローチはそれぞれ異なるが、心理療法的は、＜自己の成立＞に有効と考えている。そして、柏木と同様、愛着対象形成後の行動療法的、あるいは治療教育的なものは有効に作用し、かつ必要でもあるという立場をとっている。そして、治療教育的なものと同様、ひとりひとりの異なった症状に対し、ひとりひとりに合った治療目標とその方法を設定して、それらがいかなる相互関連を持っているのかを探っていくことが、今後より一層必要とされると、考えている。

このような問題意識のもとに、本論文では「自閉症」と診断された来所時2歳11か月の男児との遊戯療法に関して、事例研究を行った。ここで、筆者は、本児の自閉レベルをその自我発達からとらえ、Winnicott<sup>3)</sup>のいう「母子一体の時期」の生き直しと、三項関係の形成を導く他我としての積極的そして意図的な関わりを2点を治療の基本方針とした。約1年間半の治療を通して、愛着行動の成立、攻撃性の発現、共生的段階、母子分離、高感覚的行動の変化が見られた。本論文では、これらの治療過程を振り返り、治療者が本児の自閉をどのようにとらえ、いかなる目標や方針を持って遊戯療法を行い、アプローチをしたか、そしてその結果、本児の自我発達や治療者との関係がどのように変化していったか、について考察した。

## 事 例

### I 治療対象

#### 1. 本児

対象児は男児で、来所時2歳11か月

#### 2. 家族

父(来所時36歳)

母(来所時32歳)

本児

#### 3. 主訴

- ・ことばによるコミュニケーションが取れない。
- ・そのことが原因で、本児は伝わらない為イライラしている。
- ・そのことが原因で、母は不安に思う。

#### 4. 生育歴・相談歴

初歩1歳2～3か月。初語は1歳半過ぎで1歳後半には「パパ」「マンマ」等2～3語が認められた。

保健所の1歳半検診で、ことばの遅れを指摘される。2歳特診でも同じ指摘を受け、発達検査を実

施するが、本児はのらず判定不能となる。2歳頃にはことばが消失する。2歳代には、大阪市立大学どんぐり教室に通所。その後、保健所からの紹介で本所(大阪市立大学、児童・家族相談所)に来所。

### II 治療目標と方針

本児は、1人で車を一列に並べたり、パチンコ玉を頬に当てて転がしたり、という高感覚的遊びが見られ、伊藤<sup>2)</sup>のいう「外向的退行」(C. G. ユングの用語)の状態にあると、考えられる。そこで、遊戯療法を通じて、最終的には本児が、自発的に外界と関わり他者を意識した対人関係を持ち、自己を成立させることを目標にする。これらの段階に到達するまでの段階的目標として、まずは本児に治療者の存在を気付かせ、「隣りにいて怖くない邪魔にならぬ存在<sup>1)</sup>」から、「隣りにいる方が不安が少なくなる存在<sup>2)</sup>」そして「隣りにいてほしい存在<sup>3)</sup>」への変化、状態の変わらないものへの固着から変わるものへの広がり、手先だけの1人遊びから粗大な全身運動をも含む他者との関わりを持ちながらの遊び(活動性の増加)への移行の3つを設定する。以上の目標を達成する為に、治療者が本児の行動を尊重する姿勢で付き従い、本児の行動に関連した言葉掛けや道具を視界内に提示することにより、他我としての治療者の存在を気付かせることを意図した関わりを持つようにする。この考え方は、李<sup>10)</sup>のいう「漫然と受容するのみではなく、より積極的な心理的関わりを持って、“自我支持(ego-support)”(Winnicott 1965)を行うことが必要」というものに基づいている。

### III 治療方法

期間は、1990年1月22日から1991年6月22日までの全35回(現在継続中)。原則的には、週1回50分間。場所は、大阪市立大学生活科学部付属の児童・家族相談所面接室とブレイルームを使用する。来所当初から、本児は母との分離が困難であったため、母子同室で母親カウンセリング(担当松島)及び本児との遊戯療法(担当神野)を行った。その後、母のトイレ退室という形での分離を試み、入室時から分離が可能となる段階へと変化していった。

以下、本論文文中においては、下記の様に略す。

- ・ブレイルーム = P. R.
- ・本児 = Y
- ・母 = M O
- ・カウンセラー(松島) = C O (スーパーバイザー兼任)
- ・セラピスト(神野) = T h

### IV 治療経過

以下に、1年間半の記録を、各回の主な遊びを中心に具体的な内容で示す。今回、母子分離完了までの全35回を、対象とした。

＃1 初めて顔を合わせた時、Thが笑顔を向けると笑顔を返す。電車や車を自分で出し、机上で前後に動かしたり一列に並べたりする。一列にならんでいる車を、Thが少し動かすと、「キー」という声を出し、車だけを見詰めて嫌そうな表情を示して、車を元の位置に戻す。時々、Moに抱っこを求めに行く。Thが近付いていくと、スーッとその場を離れる。終了後、「バイバイ」と言って手を振ると、足元のみを見ながら手を振り返す。

＃2 一人で入室。大きめのトラックや救急車を、机に出して遊ぶ。Thが三輪車を出して乗っていると、直ぐに寄ってきてThから取り上げて手で押して遊ぶ。手で顎を掻き揚げるようにしたり、顔の横辺りで棒状の物をヒラヒラさせたりする。Moへの抱き着きは、一度だけあった。飛び跳ねたりP.R.の中を歩き回ったりする。終了後、なかなか退室しようとしなない。視線は合わないが、「バイバイ」と声を掛けると、手を振り返す。

＃3 Thが「おはよう」と声を掛けると、お辞儀をする。Moと手をつないで入室。家からゴルフボールを持って来る。ミニカーを机に出し、上体を横たえて遊ぶ。机上に登ったり降りたりする。Moへの抱き着きは、数回。Thに背を向けた状態で擦り寄ってきたり、高い所にある物を見るために、視線は合わさず抱っこを求めてきたりする。終了後、「キー」という声を出す。CoとThがP.R.から出ることを認めず。ゴルフボールは、忘れて帰る。

＃4 廊下でThを見付けると、追いかけて来る。Thがロッカーの陰に隠れると、見付けに来てから、Moの元へ走って帰る。Moと手をつないで入室。前回のゴルフボールを手渡すが、直ぐに手放す。Moの元へ何度も行き、抱っこを要求する。砂箱の砂を触り、嫌そうな表情をしてからThの手を取り、それで自分の手に着いた砂を払おうとする。床の上でゴルフボールが弾ける様子を見入ってから、寝そべてゴルフボールを眺める。砂場へ近付いてはみるが、入ろうとはしない。終了後、Moに手を引かれるようにして退室。

＃5 1人で入室。車を持って来て、机上で遊ぶ。手を使わずに、椅子に座ろうとする。Thも横で同じ様に車を出し遊んでいると、その車を取りに来る。砂箱の近くに行った時、Thが高い位置から少しずつ砂を落とすと、それを見てにこにこし始める。そして、砂箱の砂を触り、床の上に撒き散らしたり、自分の体や顔に掛けたりする。Thが砂場の中から手招きをすると、来て砂を

触り、Thに向かって飛び込むようにして中へ入る。Thの手を引っ張りながらグルグル回り始め、体を弓なり状態にして抱っこを求める。終了を告げると、渋々退室。CoとThは、P.R.から出て見送る。手を振り返す。

＃6 少し拒んでから1人で入室。砂箱の砂を触る。Thに抱き着いて来る。抱っこをして、部屋中を歩き回る。自分から降りて、砂や車を触ったり動かしたりする。以上のような事を2～3回繰り返す。抱っこをすると、体の力を抜きもたれてくる。あっさり退室する。Moに手を引かれながら帰りかけると、Thの方へ1度戻ってきてから帰る。CoとThが「バイバイ」と言って手を振ると、振り返す。

＃7 入室時から泣き叫ぶ。Moの方へ行ったり、床の上につぶせに寝転がったりする。Thは、近付いて行くと泣き声がより一層大きくなるので、机上に車を出して遊び始める。少し落ち着いてくると、Thが出してあった車に興味を示し、自分でも出してきて遊ぶ。パチンコ球を取りに行くが、つかめず受け皿ごとひっくり返す。落ちた球を親指と人差し指で持ち、唇に当てて転がしながら口の中へ入れようとする。後ろ向きでThの方へ寄って来て、膝の上に座る。Thが立ち上がると、抱っこを求めて来る。木琴や太鼓を触る。終了後は直ぐに帰って行き、CoとThの「バイバイ」には応える。

＃8 1人で入室。車を出したり、砂を四方へ投げたり、色の着いた棒を机上に並べたりする。Moの元へは数回行って、抱き着く。Moが声を掛けて退室仕掛けると、後追いをする。時間中ずっと「キー」「カタカタ」等の声を出していたので、Thが真似て同じ様に出してみると、Thの方を見て「イヤイヤ」と聞こえる声を出してThの頬を叩く。紙風船を見ていたので、Thは出して膨ませて打ってみると、微笑む。床の上に落ちた風船を取って来て、Thに手渡すことが数回。Thの膝の上に寝転がって来て、少しの間抱っこをする。終了後は、Moと手をつないで帰って行く。CoとThは、P.R.から出て見送る。

＃9 廊下でThが近付いて行くと、手足をバタバタさせてMoの背後に隠れる。入室後、暫くMoの膝の上でごろごろする。Thは1人で、机上に車を出して遊ぶ。砂や車を触りに来るが、直ぐにMoの所へ戻る。少しずつP.R.の中央へ出て来て、床の上に寝転ぶ。Thの出してきた紙風船で、5～6回転がし合いをする。また、Moの方へ行く。終了後、渋々退室し、1回だけ大きく手を振って帰って行く。(帰宅後、発熱。)

＃10 暫くしてから入室。両手を目の前でヒラヒラさせ、自分の胸を叩き、「カタカタ」と言う。「キー」

と言う声を出しながら、両手で机を叩いたり、体の前後で叩き合わせたりする。玩具を並べているロッカーの戸の中へ入り、隠れようとする。椅子に座って手を口の中へ入れ、その手をThの口の中へ入れようとする。車を思うように一列に並べられないと、泣いてThに抱き着いて来る。Moが声を掛けて退室しようすると、後追いをし泣きそうになる。終了後もなかなか退室しようせず、Thが抱っこをして出る。見送ろうとするThの手を引っ張りに来る。「また今度ね」と言うと、とぼとぼ帰宅。

#11 嫌そうな表情をした後、1人で入室。勢い良く机上に車を出し、飛び跳ねたりしてから笑顔になる。ロッカーの中へ隠れようとする。Thの言葉掛けにより、パチンコをやってみようとするが出来ず。Thの腕に触れてから、机の方へ移動する。車を一列に並べる。パチンコ球を口の中へ入れようとする。Thの膝の上に、寝転ぶ。Moの退室に後追い。終了後、Thに抱っこを求めてきて降りようとしなない。Thから離れようとしなないので、P. R. の中に戻ると、Moに手を引かれて帰って行く。

#12 車を一列に並べる。ロッカーの中へ隠れようとしている時に、Thが近付いて行くと、何かを言いながらThを押し退けて、車の方へ走って行く。Thが椅子に座ると、膝の上に座って来る。Thの手を使って、靴を脱ごうとする。裸足で歩き回り、床に寝転ぶ。水遊びを暫くするが、Thが終わりを告げると渋々止める。Thの誘いで砂場に入りスコップを持つが、直ぐに止める。カラーブロックが気になるようだったので、Thが出すと遊ぶ。Moの退室に後追い。Moの手を叩いてから、三輪車を見ていたのでThが出すと、手で押して遊ぶ。また、水遊びをする。カラーブロックや三輪車を一列に並べて、それと平行になるように寝転ぶ。走り回り出したので追い掛けると、笑顔になりMoの後ろへ逃げる。しゃがんでいるThに、後ろから抱き着いて来たので、おんぶをする。終了後、Thが靴を履かせて、渋々退室。

#13 廊下で会った時、視線が合う。Moに手を引かれながら入室。机の端から端まで車を一列に並べようとするが、最後の一つが旨くいかず、Thの手を取って「アシアシ」と言う。Thが並べ終わると、笑顔になり飛んだり走ったり声を出したりする。その声にThが「あー」「うん」と相槌を打っていると、Thの顔を見てThの頬を叩く。しゃがんでいるThの膝の上に、座りに来る。Thがカラーブロックを出すと、その上に座る。パチンコ球を持ち、椅子に座る。球が落ちると拾う、

ということは何度となく繰り返し、嫌になってくると指差しをして「アシアシ」と言って、Thに拾わせる。終了後、CoとMoの後に着いていくようにし、途中でThの方を振り返り「早く早く」と聞こえる声を出し、Thと一緒に退室。

#14 Thと微笑み合って、1人で入室。大きなトラックを2台持って来て、床の上に並べる。Thの膝の上に乗って、机上の車を眺める。Thが車を少し動かしても、全く気にしない。Thがパチンコをしていると、寄って来てThの手を球の上に押し付ける。Thが球を出すと、それを握り自分の頬の上で転がす。終了後、Moの後追いをする形で退室。CoとThが「バイバイ」と言って手を振ると、笑顔で手を振り返し、帰宅。

#15 Thの手を引っ張り、P. R. の戸口へ連れて行く。1人で入室。机上に車を出す。車を動かしながら、体も動かしている。大きなトラックを出そうとするが旨くいかず、泣きそうになる。Thが手伝いに行き、出す。それを、床の上に一列に並べ、何度も何度も並べ変える。Thの膝の上に座るが、じっとしていられず動き回る。部屋の中を走り回る。砂を腕に掛ける。Moの退室に後追い。部屋の真ん中で、両手足を着けてぐるぐる回る。微笑みながら、目の前で手をヒラヒラさせる。終了時、告げる前に自分からMoの手を引っ張って退室。手を振ると、手を一度挙げて帰宅。

#16 Moに手を引かれながら入室。「おはよう」の声掛けで、その人の目を見る。机上にニミカーを出す。暫くして、CoとMoが声を掛けて退室。だいたい経ってから気付き、戸の方へ行く。開かないと分かると、Thの手を引っ張りに来る。Thが開けないと、段々と泣き声が大きくなる。Thが戸を開けると、飛び出して行く。Moが呼び止めると、戻って来る。落ち着いて入室すると、Thの膝の上に座って車を動かす。CoとMoの前にダンブカーを並べる。ダンブカーを手で押しながら、移動する。何度もMoの手を引っ張り、帰ろうとする。部屋中を歩き回る。Thの声掛けで、来ることもある。Thが砂に触っていると、一緒に触りに来る。Thがブラレールを走らせると、それを一列に並べる。Moに手を引かれて退室。「バイバイ」と言うと、しっかり視線を合わせる。

#17 廊下で遠くからThが手を振ると走って来て、視線が合うと走ってMoの方へ返って行く。1人で入室して、机上にニミカーを一列に並べる。Thがその車を少し動かすと、元の位置へ直ぐに戻す。Thの膝に、軽く腰掛けている。Moの退室に、後追い。Thが体をくすぐると、にこにこする。Thの手を取って、自分の頬



に当てる。Thが頬を撫でると、じっとしている。Thが顔を近付けると、「キー」と言って顔を押し退ける。Thがマットを出し、その上で遊んでいると、じっと見ていて喜ぶ。Thが抱っこをしてマットの上に下ろす。机上の車を、マットの上に移動させる。この時、2～3回視線が合う。Thをマットの上に誘う。終了後、Thの手を引っ張りに来て一緒に退室。Thの目をじっと見詰めてから、歩き出し帰宅。

＃18 入室しようせず、Thと手をつないで外をうろうろし、バイクが走り去ってから「行こう」と声を掛けて軽く手を引っ張ると、静かに入室。車を出す。Thがマットを出し終えると、直ぐに寄って来て車を移動させる。机で頭を打ち、「イタイ」と聞こえるような声を出す。パチンコ球をThに出すよう要求する。Moの膝に座った時、Thが呼びに行くとMoから離れる。Thがずっとついて歩いていると、目を見て顎を叩き声を出す。Thが出したカラーブロックの上に乗し、アンバランスを楽しんでいる。Thが更に動かすと、笑顔になる。カラーブロックをThが積み上げると、倒しに来る。終了後、泣いてからMoに手を引かれて退室。微かに微笑み、手を挙げて帰宅。

＃19 泣き出しそうな顔をして入室。机上に車を一列に並べる。Moの退室に後追い。Moの手を引っ張り、退室しようとする。パチンコ球を頬の上で転がしている内に、落ちていく。机上の車を見詰めながら、Thの膝の上に座る。Thは「マットを出すよ」と声を掛けて行動に移す。全く乗って来ない。Thの出したカラーブロックの1つを見て、「キー」と言って車を移動させ、一列に並ぶようにする。パチンコ球が出ないと、Moに助けを求め、次にThに求める。Thに抱っこを要求する。机上に寝転ぶ。終了を告げる前に、Moの手を引っ張りに行き退室。しっかり視線を合わせて、手を振り帰宅。

＃20 廊下で見かけると走って来るが、約1m手前で引き返す。机上に車を出し、Thの膝の上に座って遊ぶ。車を自分の顎に当てて、カチカチと音を出す。Yが声を出す度に、Thが相槌を打っていると、不思議そうにThの顔を見る。この時、Thは微笑み掛けた。Thがマットを出すと、じっと見ていて直ぐに寄って来る。Thが、カラーブロックを放り投げていると、Thの目をじっと見ている。終了後、Moと手をつないで退室。しっかりと目を見て手を振り、帰宅。

＃21 1人で入室。車を机上に出し動かしながら、Thの膝の上に座って来る。Yが声を出す度に、Thも同じ様に声を出していると、数回Thの目を振り返って

見た。Thが顔を近付けても嫌がらず、Yの方から更に近付けて来た。パチンコ球がないと分かったと、机を叩く。Thの膝の上に座り、やっと落ち着く。Yがマットに触りに行ったので、Thも行き一緒に出す。マットの上で、Yが跳ぶ-Thが跳ぶ-Yが跳ぶということを1度する。終了時、告げる前に自分からMoの手を引っ張りに行き、退室。

＃22 1人で入室。砂場や水場をじっと見てから、机上に車を出しに行く。運んでいた車が手から落ちると、イライラし始める。Moの方へ3度程行くが、治まらない様子。ThがYの右腕を擦っていると、Thの目を見て微笑む。ThがYの体に触れると、Thの目を見て、微笑む。Thの背後へ来て、おんぶをする。Thは、部屋中を歩き回る。鏡を通して微笑みかけると、微笑み返す。ThがじっとしてYの行動を見ていると、Thの手を引っ張りに来る。Thは、行動を共にする。トラックと一緒に動かしていると、Thの手を払い除けて泣きそうになり、Moの方へ行く。砂に触る。Thの出した三輪車に乗し、Thの声かけでこいでみようとするが、出来ない。終了後、少し泣いてから退室。手を振って帰宅。

＃23 「おはよう」と声をかけた時、視線は合うが無表情。車をたくさん出す。三輪車を見ているので、Thが行って出ると、手で押してから乗る。部屋の中を歩き回って、マットに触る。Thが「一緒に出そう」と声を掛けると、手伝う。パチンコ球を放り投げる。Moの手を引っ張って、何度か退室しようとする。Thの動き掛けに、嫌そうな表情を示す。終了後、あっさり退室。目を見て手を振り、帰宅。

＃24 廊下で大声を出している。Thの姿を見付けると、走って来る。「おはよう」らしき声を発したので、Thも「おはよう」と声をかける。1人で入室。車、ダンプカー、三輪車と、自分で出す。人形用の哺乳瓶を2つ持って、耳元で振ってその音をじっと聞いている。Thがマットを出すと、寄って来てその上に寝転ぶ。Thがカラーブロックを出すと、その上に馬乗りになる。Thがブロックを積み上げると、Thの様子を伺うようにして倒しに来る。倒すと、「せっかく積んだのに」と言ってくすぐりに行くと、楽しそうにする。数回繰り返す。Thにおんぶや抱っこを要求する。砂を、投げたり腕にかけたりする。終了後、泣いてから哺乳瓶をThに手渡し、退室。目を見て手を振り、帰宅。

＃25 机上に車を出し、1つずつ動かす。パチンコ球を、床に投げる。Thが車を動かすと、泣きそうになる。Thは、止める。哺乳瓶を取りに行き、耳元で振ったり顎を叩いたりする。Moの手を握りに行く。Thが

マットを出すと、寄って来る。Yが歩き回る後をついて追い掛け、くすぐると微笑むが、暫くして嫌そうな表情に変わる。哺乳瓶を持って、椅子に座る。その横にThが座ると、体をもたせかけ膝の上に寝転ぶ。終了後、机の上に哺乳瓶を置いて退室。CoとThは、P. R.の中に押し戻される。手を振ると、目を見ながら帰宅。

# 26 Thと手をつないで入室。無表情。Moの入室を確認してから、車を机に出し始める。くすぐったりするが、無視。部屋中を歩き回り、手押し車を出す。それに付いているベル等をThが鳴らすと、Yは激しく前後に動かす。Thは、止める。哺乳瓶を取りに行き、耳元で振る。Moの方を時々見る。CoとMoの回りを、走ったり歩いたりする。その後に着いてThが追い掛けると、にこにこする。暫くしてThが座り込むと、Yはじっと見る。また、Thは追い掛け始める。Yの表情が真剣になったところで、止める。哺乳瓶の片方が壊れていて、中の液体が出てきているのに気付く、嫌そうな顔をする。砂を投げる。Thも一緒にする。終了後、暫くしてから机の上に哺乳瓶を置いて、退室。CoとThは、P. R.の中からの見送りしか許されず。手を振るとじっと見詰めて、帰宅。

# 27 Thと手をつないで入室。鼻の辺りが気になるらしく、何度も拭こうとするが、鼻は出ていない。哺乳瓶を取りに行く。机の上に寝転んで、マットの方を見ている。Thは、マットを出す。Yがマットの回りを歩く。Thが追い掛けてくすぐる。Yは振り返ってThの目を見る。Yがマットの回りを歩く、ということを繰り返す。マットから不意に転がり落ちた後で、砂を投げる。Thは、「びっくりしたな。痛かったな。」と声を掛ける。終了後、1人で退室。手を振り見送っているThの手を、握りに来る。

# 28 廊下で見付けると、走ってきてThの手を引っ張る。1人で入室。Moの入室を確認してから、車を出す。哺乳瓶を取りに行く。Thが椅子に座ると、その様子を見て同じ様に座る。Thがくすぐったりすると、嫌そう。パチンコ球を出そうとすることがないと分かったと、Thの手を引っ張りに来る。出てきた球を全部、投げる。2人で、拾う。Yは、球を1つ自分の服の中に入れる。マットを出そうとすることがない。Moの手を引っ張る。Thが行って手伝い、一緒に出す。マットの上を歩き回り、砂を投げる。Thの積み上げたカラーブロックを倒したり、ブロックの上に乗ったりする。何度もMoの手を引っ張りに行き、帰ったようにする。マットの上に寝転ぶ。終了後、あっさりと退室。手を振ると、じっと目を見てから帰宅。

# 29 廊下で目が合い、微笑み合う。鍵を持って行くと、中に入りたいと言って泣いていた。MoとThと手をつないで入室。激しく泣き、哺乳瓶を取りに行く。治まらない様子で、Moの膝に抱かれてシャツの襟を引っ張っている。治まってくると、1人で遊んでいたThを引っ張りに来て、砂場へ行く。しゃがんでいるThの肩の上に乗って来る。肩車をして、部屋の中を歩き回る。パチンコ球を取り、落ちるとThに「アー」と言う。この時、何度も目が合う。球を頬に当て、ぼーとした表情になる。Thが砂で遊び始めると、寄って来て一緒にする。砂の中に球を置いたので、Thは、Yが見ていることを確認してから砂の中に隠した。すると、必ずと言うわけではないが、その辺りに手を持って行く。車を出す。Thが、Yの持っている車目がけてぶつかりに行くと、嫌そうにする。靴と靴下を自分で脱ぎ、机に上がる。Thが、車をYの体中に走らせると、喜ぶ。終了後、Thと協力して靴を履き、手を振って退室。

# 30 MoとThと手をつないで入室。哺乳瓶を持ち耳元で振りながら、車を出す。哺乳瓶を棚に戻し、車を机に乗せる。パチンコ球を持ち、砂を投げる。三輪車や手押し車を出し、前後に押して動かす。Moの方へ行き、手を引っ張る。Thの呼びかけを無視する。Yは泣き始め、Thが抱っこをして歩いている内に、落ち着く。終了後、Moと手をつないで退室。1人で歩いて、帰って行く。

# 31 Moと手をつないで入室。車を出し、左右前後に動かす。Thも同じ様にしていると、Thから気に入った車は取り上げ、気に入らない車は机下に落としてしまう。ThがY目がけて車を走らせて行くと、そのままの向きで車を返して来る。パチンコ球を自分で取って、頬の上を転がす。哺乳瓶を取りに行くが、床の上に落としてしまう。Thに体をすり寄せて来て、抱っこを求める。終了後、1人で退室し、自分の方に掌を向けて手を振る。

# 32 Thと手をつないで入室。手押し車や三輪車を、部屋の真ん中に出す。パチンコ球を取りに行く。声かけをしてから、CoとMoが退室。後追いをし、泣き叫ぶ。Thが抱っこをして、しばらく部屋の中を歩き回る。落ち着いてきたので、抱っこをしたまま椅子に座る。しばらくして、Thの声かけでパチンコ球を取りに行き、口の中へ入れようとする。Thが禁止すると、再び泣き始める。また抱っこをしてしばらくすると、落ち着く。Thが人形に哺乳瓶でミルクをあげていると、それを見ていて、笑顔になる。Thと手をつないで退室。自分の方に掌を向けて手を振り、Moに手を引かれながら帰宅。

#33 待ちかねて廊下で泣いている。M Oを入室させようと、必死になる。4人で入室。哺乳瓶とパチンコ球を取りに行く。C OとM Oが退室。T hの手をノブに持って行き、T hの目をじっと見る。泣き声を出す。T hが抱っこをしようと、しがみついてくる。落ち着いてくると、自分から降りて手押し車と三輪車を出す。T hは、スポンジのラケットとボールを出す。ボールの転がし合いをする。あらゆるもので、顎を叩く。T hと手をつないで退室。掌を自分の方に向けて手を振る。

#34 M Oの手を離さずに、入室。しばらくして、C OとM Oが退室。泣き叫び、T hが抱っこをしようとしがみつく。テッシュ箱を叩くので、T hが紙を出して鼻を拭くと、T hの手を持って何度も鼻に擦りつける。哺乳瓶を持つ。T hが、マットとカラーブロックを出す、

笑顔になる。三輪車と手押し車を一列に並べる。終了後、首を横に振る。T hと手をつないで退室。掌を自分の方に向けて振り、帰宅。

#35 T hと手をつないで入室。少しぐずる程度。車を顎に当てながら、椅子に座る。自分でカラーブロックを2〜3個出し、その上に座る。手押し車と三輪車を、一列に並べる。T hが三輪車に乗ると、その膝の上に座ってくる。T hがマットの陰に隠れて、だいぶ経てからのぞくと、目が合い微笑み合う。Yはぐずり始め、T hに抱き着いてくる。T hと手をつないで退室。掌を自分の方に向けて手を振り、帰宅。

以上の全35回を、M Oとの関係・T hとの関係・Yの行動特徴という3つの視点から5つの時期に分類した。これらをまとめたものを表-1に示す。

「表-1 治療経過」

	M Oとの関係	T hとの関係	Yの行動特徴
第一期 (#1~4)	・母子一体 ☆M Oの膝元へ何度も行く	・遊びに加わろうとすると拒否 ・近づいて行くと、スーッと離れて行く ・見送り時、P. R. から出ることを許されず	・特定の車で机上のみで遊ぶ *車を同一方向に一列に並べ、眺める ☆立ったままの姿勢
第二期 (#5~13)	・母から離れて一定の時間遊べる ☆M Oの元へ行く回数減少 *母子分離（後追いにて不可）	・遊びに加わろうとしても拒否無し ・後ろ向きの姿勢で近づいて来る ・身体接触増加	・ロッカーの中に隠れる ・砂を触る *パチンコ玉を握る *車は第一期同様 ☆椅子に座る
第三期 (#14~23)	・M Oがいると分かっているだけで遊べる ☆気に入らない事があっても、M Oの回りを歩くだけで落ち着く	・T hの遊んでいる様子をじっと見る ・膝の上に座りにくる ・視線は合うが無表情	・飛んだり跳ねたりする ・三輪車に乗る *両耳を引っ張る *パチンコ玉を頬に当て転がす ☆部屋中を歩き回る
第四期 (#24~31)	☆時々、M Oのいる方を見る *母子分離（泣いて母の手を引っ張り不可）	・T hの遊びを真似る ・抱っこやおんぶを要求 ・声を出し、目を見て手を引っ張るという形で要求出現	・マットや布積み木に乗ったり倒したりする *あらゆる物を顎に当ててカチカチ音を立てる *哺乳瓶を持ち、耳元で振る ☆マットに寝転ぶ ☆机上に登る
第五期 (#32~35)	・M Oが見える範囲内にいなくても遊べる *母子分離（泣いて後追いをするが、T hが抱っこをしようと落ち着く）	・言葉かけのみで納得する時もある ・泣いて不満を訴える ・泣き叫んだり、ぐずっているとき、抱っこをすれば落ち着く	・手押し車や三輪車に乗る *哺乳瓶を持ち耳元で振る *パチンコ玉を頬に当てて転がす ☆T hに抱かれて移動

### V Yの自閉レベルについて

以上に、Yとの治療経過を通覧した。ここでは、多様な臨床像を示す自閉症児の中で、Yが一体どの様なタイプに属していたのか、また属しているのか、を明らかにすることにより、この1年間半でのYの変化を把握する。1987年に発表された米国精神医学会の「精神障害の分類と診断基準第3版(DSM-III-R)」による診断と、若林<sup>11)</sup>による「津守・稲毛の乳幼児精神発達質問紙」からの発達群と遅滞群への分類とに、照合してみる。以下に、それらの基準とYの結果を表-2、表-3に記す。

「表-2 DSM-III-Rの基準とYの該当項目数」

群	A	B	C	D	計
基準	2	1	1		8
来所時	4	1	2	1	8
現在	2	1	3	1	7

「表-3 津守・稲毛の乳幼児精神発達質問紙による分類の基準」

	遅滞群	発達群
3歳台	50以下	50以上
4歳台	40前後	60より上

表より、Yは、来所時8項目に適合し、診断基準を越えていた。群別に見ると、A群を中心に該当項目が認められ社会的相互作用に問題を有していたこと、診断基準以上ではあるがかなりの改善があったことが、理解される。それに反して、C群は、増加する傾向にあった。つまり、自閉症児によく見られる、車のタイヤを指で回して眺めたり、自分の手を目の前でヒラヒラさせたりする等の高感覚的行動は、表出される形の変化はあっても常に見られた。

また、現在、発達指数が50以下という結果を得た。よって、Yは遅滞群に位置づけられるが、年齢的にみて早期であり、「アシアシ」「コワイ」等の言語も数個有しているということを考え合わせると、以後の経過を観察する必要があると思われる。

## 考 察

### I Yの自我発達と治療方針

ここでは、Yの自我形成に注目し、それがどの様に発達していったのかについて、この遊戯療法におけるThの治療方針と関連させながら明らかにしていきたい。

様々な自我に関する発達理論がある中で、麻生<sup>12)</sup>は、「日常生活においてわれわれが『自分・私・自己』といった事柄を意識する際には、その背景に必ず他者との関係的世界が『地』として存在している」と、述べている。これは、他者に重点をおいた関係論的立場から自我を捉えている。

乳児期の子どもは、母(他者)と一体になった混沌とした共生段階を過ごす。この時期に子どもは、自分の身体の動きに伴う感覚と、その動きを反映してくれる相手としての母との関係を探り始め、自らの身体性に気付き、自分のものとしての身体を発見していく。麻生によれば、やりとり関係の中で自他の共同性と同時に自他の個性が成立していく過程といえるのである。

この場合、反映するとは子どもの行動を模倣した形で返すということである。これは、遊戯療法におけるThの、基本的には子どもに付き従うという姿勢に通じると考えられる。そして、子どもは目に見える存在としてのもの(他者)を通して、行動の源は自分の身体なのだと思い付いていく。これは伊藤<sup>13)</sup>のいう「器(container)」(Bion, W.R.の用語)が取り入れられる過程に相当すると考えられる。

基本的に付き従う絶対的受容の態度は、乳児期の子どもの自我発達にとって必要不可欠であると考えられる。同時に、子どもに他者という存在を気付かせるためには、他我としての意図的な関わりが要求される。「治療において必要なのは、絶対的受容と同時に、治療自身の治療意図」なのである(李<sup>14)</sup> 松島<sup>15)</sup>)。

では、実際に自閉症児といわれる子どもと関わっていく際、どのような目標を持ちどの様に援助していくことが必要とされるのだろうか。筆者らは、子どもの「外界に対する身体的解放」であると考える。

自閉症児における臨床像の特徴は、ある特定の刺激に対する異常な反応、言語の発達が遅れていて、音声によるものだけでなく、身振りによる言語をも、社会の中で使用するのが困難である。要求出現の際には、クレーン現象と呼ばれる他者の手をあたかも物のように扱うという行動が見られる。このようなことが生じるのは、外界と自分との境界があいまいな状態の時である。

伊藤によれば、自閉症児の自己は、外界の中に埋没してしまっている。Des Lauriers<sup>16)</sup>は、子どもは身体で自分の欲求を表現し、心身の成長に必要な事物、刺激を母親並びに人間環境から得るのであるが、自閉症児はこの人間のコミュニケーション原型としての心身モデル(psycho-somatic model)、すなわち互いの身体的存在を感じることができないと述べている。もし、Des



Lauriers が言うようにここに自分に興味・関心をもった、自分とは別の人間がいるということに気づくようになり、そして、しだいに興味・関心をもたれている自分に関心を持つようになれば、子どもは、外界に対して自分の身体を解放することが可能となるだろう。

以上のように、乳児期の自我発達を捉えた上で、筆者らは本児との遊戯療法を行った。全35回を、治療経過と同様に5つの時期に分類し、それぞれの時期に行ったThの治療的関わりとともにYの自我形成がどのように変化していったのかを以下に述べる。

#### 1. 第1期（#1～4）

ThがYと関わりを持とうとすると、パニックのような状態、例えば「キー」というような声を出したりするため、ThがYを全面的に受け入れる姿勢を取った。このことにより、Thの存在をYにとって助けになる良い面だけをそなえたものとして気付かせることを目指した。具体的には、Yの嫌がることは全く行わず、禁止もできるかぎりしなかった。どうしても禁止しなければいけないことについては、なるべくCが行うようにした。

Yは、母子分離ができず、全てにおいてMと一体であった。しかし、そういった中であっても、YはThの手を玩具の上に乗せたり、抱っこを求めてきたりするようになっていった。初期の心性において主客が未分化である時、主体の生理的状态・欲求が姿勢や状況とすみやかに連合を形成し、そこにある種の共同性が生まれることが必要とされる。これは、ワロン<sup>13)</sup>のいう「情動的共生」の段階に相当すると考えられる。

#### 2. 第2期（#5～13）

ここでは、Thとの身体接触をY自身が積極的に求め始めたのと同時に、箱庭の砂を投げるといった攻撃性が出現した。これは、山中のいう治療の第2段階（共生的段階と強い攻撃性出現の時期）に相当すると考えられた。Thは基本的には付き従う姿勢を取りつつ、Yがほんの少しでも興味を向けたもの、例えばちらっと見た砂場へ声を掛けながら近付いて行って先に遊び始めるという導入的役割を心がけた。

Yは、Mと離れている時間が長くなり、Thとの一体化・共同性を確立したと考えられる。その一方、Yはロッカーの中に隠れるといった行動に見られるような身体的自我の意識化が見られ始めた。対象に対する行為が行為と対象とに分離されぬまま他者のコメントを引き出すものとして意識されるレベル、麻生<sup>12)</sup>のいう「行為の共同化」の時期と考えられる。また、Yは気に入らないことがあると、「イヤイヤ」と聞こえる声を出し、その行為者を押ししたり叩いたりするようになった。秦野<sup>16)</sup>に

よると、この時期「要求一拒否」「提示・撤回」という否定の対話構造について何らかの認識が獲得され始め、不快の情動と結び付いた拒否の慣用身振りが出現すると、報告されている。

#### 3. 第3期（#14～23）

Yは、Thとしっかり目を合わせるようになり、Thの遊んでいる様子をじっと見るなど、しっかりとThを認識し始めた。ThはYへの言葉かけや働きかけを増やし、身体接触もYからのみではなく、Thからもするよう心がけた。

Yは、Mの元へほとんど行かなくなった。Thとは、落ちた玩具の位置をThが指差しと言葉によって教えて、Yが取りにいくという行動に示されているように、玩具を介しての三項関係が成立した。Thがじっと座って見ているとYは振り返って目を見る行為から、YはThが近づいてくることを期待し始めた。よって、基本的な三項関係が成立し、人を意図的・積極的に注視するようになるが、人より物を注視することが多く、物への指向性が顕著である。Thをじっと見ることで、見えるものとしての他者を発見し、それを媒介にして自己を発見することが可能な段階と考えられる。

#### 4. 第4期（#24～31）

歩き回るYを、Thが追いかけてくすぐると微笑んだり、Thの声かけと一緒に協力して物を出したりするようになった。Thは、付き従うという基本姿勢は変わらないが、動きをともなった身体接触をさらに増やし、Yが哺乳瓶やパチンコ玉を持ち、一人遊びに没頭している時には見守るよう心がけた。

Yは、Thの遊びを真似たり、抱っこやおんぶを要求する時、Thの目を見て手を引っ張り、声を出すというはっきりとした形で表出するようになった。一方、マットや布積み木に乗ったり倒したりし、哺乳瓶を持って耳元で振ったり顎に当てたりしながら、Thの膝の上やマットの上に座ったり寝転んだりし始めた。これは、退行と自己身体の確かめ行動と考えられる。伊藤<sup>9)</sup>のいう治療上重要な観点のうちの1つである「身体像の獲得」の時期と考えられる。この時期、家庭でもMへの甘えが出現していた。

#### 5. 第5期（#32～35）

泣いて後追いをするが、母子分離は完了した。Thは、泣き叫ぶYを抱っこし歩き回ったり、椅子に腰かけたりし、共に感じる存在を心がけた。基本的には、Yの行動に従う形をとりつつ、他者としてのTh自身が感じたり思ったりしたことを言葉を介して表現していった。Yが落ち着いているときには、身体を使う遊びを通しての働

きかけもしていった。

今までは手で押し、眺めるだけであった手押し車や三輪車に乗って移動するようになり、Thとの間でボールの転がし合いが可能となった。この時期、自我はすでに象徴的な水準で他者と可換なものとなり得ていて、「自己-他者」の基本構造が成立した段階である。

## II 治療経過とThの心の変化との関連

マラー<sup>17)</sup>は、生後2～3ヶ月にかけて、赤ん坊は「経験される『対象』」の認知が始まり、同時に母子が共生関係に第一歩を踏み出すのであり、そして対象を経験するためには、それとともに当然、『対象』に対比される『自己』の経験が育っていなければならない」と、述べている。自我発達の過程においては、他者の存在が必要不可欠である。岡本<sup>18)</sup>によれば、新生児の対人的行動として、「情動の共有」をあげている。共有とは、共同して持つということである。

Yの自我が発達するにつれて、YとThとの関係にも質的变化が見られた。ThがYの中に取り入れられていくとともに、Y自身がThの中にも1個の自我として入り込んでくる過程と考えられる。

そこで、ここではThがYとの関係の中で実感したこと、に焦点づけて、治療経過を振り返ってみたい。

#1 無我夢中という感じで、非常に緊張した。Yに対する第一印象は、とても可愛らしい顔をしているというものだった。Yに受け入れてもらえ、やっていけるという自信は持てなかったが、Yと遊んでいきたいという気持ちは生じた。

#2 楽しそうに遊んでいるなと感じた。側で見ていだけで、遊びの中へ入っていったり参加したりということは、まったく出来なかった。真剣に付き添っているという感じで、終了後、妙に落ち込んだ。

#3 前回と大きく変わり、楽しく遊べたように思った。ゴルフボールを持ってきて、忘れて帰ったことに興味を引かれた。P、Rに心を残していったのか、P、Rに愛着を示したのか、ただ単にボールへの興味がなくなったのだろうか、と考えた。Yの方からの身体接触があったが、こんなに接近していいものだろうか、Thの方がかえって戸惑った。Yは、伸び伸びと活動が行っていたように見受けられた。

#4 前回忘れて帰ったゴルフボールを渡すが、直ぐに手放し再び置いて帰った。もう返さなくてよいのだろう。体を使ってビョンビョン跳ねたりという動きが出てきたので、だいが緊張が取れてきたのだろう。Yは、Y

自身のためだけに笑顔を示している、という印象を受けた。Thは、空しさを感じた。

#5 椅子に座ろうとしたりバスを出したりと、幼稚園に関することが、遊びの中に繰り広げられているようだった。砂箱の砂を嫌そうではあるが触ったり、Thの誘いで砂場まで来たりしたことにより、Thの言動に気を止めて反応したと思えた。

#6 抱っこをする回数が増えその時間も長くなったので、Th自身の緊張が、大分取れてきた。Yに誘導される形で、ThはYとの距離を近づけられたように思う。

#7 入室時に、何故泣き叫んでいたのだろうか、と、気になった。しばらくして落ち着いてくるといつもの様に遊べたので、救われたように感じた。Thが見当たらない時、後ろを振り返るような動作をしたのが、印象的だった。Moがティッシュを出すと逃げたのを見て、鼻をかむことを連想して嫌だという気持ちが出てきたのだろう。Yから感情が出てきたと感じ、心の霧が晴れたようだった。パチンコ玉によって、「イナイナイナイバー」的な遊びが、2人の間でできた。

#8 Yの発声の回数とその大きさが増したことから、今までの声や音のない世界から抜け出たような安らぎを感じ、音の大切さに気付かされた。自分の気に入らないことがある時、Thにはっきりと分かるような態度を示すようになり、Yの気持ちを理解し易くなった。その分、Yの感情に振り回されている感じがした。しかし、何故そういう感情が生じてきたのかということに対する洞察はできず、反ってYとの距離を知らされた。

#9 会った瞬間に嬉しそうにするYの姿を見て、いつもと違うなと感じ、動揺した。一緒になってボーッとしている内に、Thも落ち着いた気持ちになり眠たくなって来た。それだけお互いがリラックスできた証拠だろう。Yはしんどいのか、寝転んでいる時が多かった。Thは、何かをしようと思うが何もできず、自分の無力さを感じた。

#10 帰る時に手を引っ張りに来てくれたのが、とても嬉しかった。しかし、笑ったり怒ったりしている時、全く視線が合わないのを残念に思った。思うようにならないことがあった時、その時感じている気持ちは通じてくるが、訴えてくる様子は全く無く、抱き着いてこれてもという気持ちになってしまった。気に入らない事があった時に机を叩くのと同じ様に、Thに抱き着いてきているのではないだろうか。Thの膝に座る時も、椅子に座る時と全く同じだと感じた。しかし、Thを触っている時のYの真剣な表情を見ると、物とは違うThという人間を意識していることはうかがえるが、まだぼんや

りとしたものののだろうか。

#11 ほんの少しの間無表情ではあったが、視線が合ったのが印象的だった。その瞬間にThはどのような表情をしたらよいのか分からず、ただ見詰め返して微笑んでいた。Yの目の表情から、戸惑いの様子がうかがわれた。パチンコ玉を口に入れることを禁止した時など、直ぐにその指示が入ったので驚いた。車を一列に並べ、その内側で飛んだり跳ねたりして遊んでいる様子を見て、自分の領域がはっきりしてきたのだろうかと感じた。気に入らない事があった時など、声や行動だけでなく表情としても出すようになり、ThはYの気持ちを以前よりも理解し易くなった分だけ安心感を持てるようになった。

#12 追いかけて風のことをしている時に、逃げてから後ろを振り返りThの目を見るという行動が見られる等、Thの存在をはっきりと認識してくれているという確信が持てた。帰宅時、偶然にはなく意図的にThの目を見たという風に感じた。Th自身が、Yに対して積極的に関わっていけるようになった。その場の雰囲気より、遊びに参加できていると思えるようになった。Yの良い面ばかりが目に着いた回だった。

#13 自然な関わりが持てる様になった。Thの声かけに対するYの行動での反応が、増えたように感じた。遊びの範囲が広がったのが、嬉しかった。言葉かけをし過ぎるとYの表情が険しくなるので、その点については気が抜けないと、感じた。来所時と帰宅時に、Thの目をじっと見てくれたのが、印象的だった。Yが見ている限りThも笑顔で見詰め返そう、という気持ちに自然となった。Yと、言葉なしでの会話をした様に感じた。

#14 笑顔で目も合い、嬉しかった。YのエネルギーがThのエネルギーを、上回っている様に感じた。Yは着実に成長しているのに、Thは以前のままである。YがMの所へ行った時、何かしら入って行きにくい感じを受けた。

#15 Yの成長ぶりに付いて行かなければ、と思った。焦りによる緊張を感じた。CとMの存在を意識した。Thの膝から離れるようになったことに関しては、嬉しくもあり寂しくもあった。Yによって、はっきりと人として見られていると思った。これから、関わり方を一歩退いたものにしようと決心した。

#16 前回に比べて、少し解放された気持ちで接することができた。じっと目が合った時、「見ている」という実感が持てた。この人が誰であるか、解っているようだ。Thが何等かの働きかけをしても、嫌がらなくなった。固執することが減った分、主張が出ればよいのにと

思った。Th自身が、自信を持って接していけば良いのだと思えるようになった。Yの要求が解らない時、不安になる。

#17 Th自身のエネルギーが出てきた。体を使った働きかけができ目も合い、自然な形で接することができた。かなりの働きかけや介入にも、拒否が見られなくなった。もっと、働きかけていこうと思った。かえり際に、Thの手を引っ張りにきてくれたのがとても嬉しかった。YがThに身体接触を求めてくることによって、Yが安らぎを覚えているのと同時にThも何かホッとさせられた。

#18 Yに引きづられてという気はするが、Th自身も変わってきた様に思えた。Yの気に入らない事をしても大丈夫だ、という自信がわいてきた。Yが一人遊びをしている時は、安心するためのものだろうと考えられた。Thが、何かを吹っ切れたように感じた回だった。

#19 Thが先走り過ぎたために、何かを乱してしまったように感じた。そのために、Yの行動が自分の中でのみ繰り広げられていったようだ。マットは、気に入っている様子。パチンコ玉は、Yにとって大きな意味があるようだ。どの程度まで働きかけたら良いのかということは、回によって異なるのだろう。

#20 YがThに近付いて来たことによって、Thは働きかけることを許可されたように感じた。拒否されたり無視されても、いいのだと思えるようになった。目の合う回数が増えた。拒否の表情を示すようになったため、Yの気持ちを読み取り易くなった。

#21 Yが、ThとMを使い別けているように感じた。「中だるみ」の様な、「だらけた」という印象を持った。Thは、焦り過ぎて働きかけることばかりにこだわっていて、待つことの大切さを忘れていたようだ。

#22 Yは、楽しみにしてここへ来ているのだろう。車を全く並べなくなった。苛々した感情をはっきりと示していた。声を出すことが増えたように思う。常にThの動きに注目するようになり、Thに助けを求めてきた。信頼感を持つようになったのだろう。帰りたくなさそうにしていたのが、久し振りのように感じた。

#23 4人の雰囲気ができあがっていることに、改めて気が付いた。協力して物を出すということができたのが、驚きでもあり嬉しくもあった。Mの手を引っ張りに行き帰ったようにした時、退屈なのだろうかと自分を責める気になった。今日はあまり楽しそうではなかったので、Thも残念に思った。

#24 Yが一人の世界に入った時、Thはじっと横で見ているのみであった。いつも決まりきった行動パター

ンを示すのだと思った。体を使った遊びを楽しんでいるようだ。Yは、Thを気にしていたり何かを表情で訴えてくる感じだった。

#25 今日は、体調が悪そう。Thの介入が、早すぎて深すぎたように思った。いつもと行動が違っていたので戸惑う。自分の思うように行動を試みるが、全く受け入れられない。今度は、Yの方からThに近付いてきたので、不思議に思った。表情が、余り変化しないことが気になった。

#26 身体接触を全く嫌がらなくなった。異なったものにも自分から触りにいくようになった姿を見て、様子が変わりThとの距離が出てきたように感じた。追いかけて風のことができるようになり、楽しかった。一人の世界を作っているように感じる時があった。

#27 少ししんどそうだった。Moは、哺乳瓶を持たせたくない様子だったが、Thは持たせてあげたいと感じた。Thも一緒に遊べた。自分の体を使って遊んでいるようだった。Thは、Yの気持ちや要求を読み取り易くなったようだ。

#28 Thの手を引っ張りに廊下を走ってきたのを見て、変化したYの姿に驚いた。物を投げたり倒したりする行動は見られるが、積み上げたりする行動は見られないのが残念だった。Thの行動は気に掛けているようだが、寄って来ることは減ったように思う。Yの嫌そうな表情ばかりが気になった。一人の世界に入り込んでいる時には、どうしたら良いのか分からなくなる。

#29 駄々をこねているYの様子を見て、Thは戸惑った。行動の模倣が見られるなど、YがThを非常に意識していることが感じられた。車をほんの少し取り合いた。もっと頑張ればいいのと思うほど、あっさりと諦めたのが少し残念だった。交流を持てる関係になったという確信が持てた。

#30 今までの経過に焦りを感じ始めた。Yが自分だけの世界に入った時、何とかして関係を持てるようにしようと思うようになった。Thは一人にされることに不安を感じた。追いかけてこをしている時、追いかけてほしいのかやめてほしいのかが、はっきりと伝わってきた。

表-4 治療経過とThの心の変化

	治療的関わり	Thの実感	Yの自我発達
第一期 (#1~4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全面的に受入れる</li> <li>・嫌がることはなるべくしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいらしい子</li> <li>・空しさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同性の芽生え</li> <li>・情動的共生</li> </ul>
第二期 (#5~13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には付き従う</li> <li>・遊びへの導入の役割りを担う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張感が取れた</li> <li>・Yの気持ちを理解し易くなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同性の確立</li> <li>・拒否の出現</li> </ul>
第三期 (#14~23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付き従いつつ、積極的に働きかける</li> <li>・身体接触を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自信の変化</li> <li>・自信が持てるようになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三項関係成立</li> <li>・期待行動出現</li> <li>・人物注視</li> </ul>
第四期 (#24~31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の動きをともなった働きかけ</li> <li>・一人遊びをしている時は見守る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心感</li> <li>・関係の中に距離ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退行</li> <li>・身体像の獲得</li> </ul>
第五期 (#32~35)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共に感じる存在</li> <li>・感じたり思ったりしたことを言葉で表現し返す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係が持てる</li> <li>・Yは大きく成長した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりとり関係成立</li> <li>・自己-他者の基本構造成立</li> </ul>



#3 1 何とかしてYを振り向かせたいと思ってしまった。Yが要求を出すと、心が和む。パチンコ玉は、Yのエネルギー源ではないだろうか。YがThに体をすり寄せて来た時、Thが抱っこをするとYが非常に喜んだので驚いた。一人遊びをしている時は、じっくりとさせてあげる方が良いのではないだろうか。

#3 2 Thは、Yが成長したように感じた。幾らYが泣いても、Thは不安にはならなかった。とてもよく目が合い、自然な感じを受けた。Thの声かけを理解して行動に出せるようになったようで、嬉しかった。

#3 3 だだをこねている姿を見て、頼もしさを感じた。急にコミュニケーションが取れるようになった気がした。Yの主張の激しさに、Thは圧倒された。YとThとの距離が、再び密着したように感じられた。ボールの転がし合いができた時、言い様のない感動を覚えた。

#3 4 赤ちゃんがしているようなぐずりと、感じられた。その割りには聞分けのいいときもあるのだと、差の激しさを不思議に思った。Thの働きかけを無視することはなくなった。自分の身体を使った遊びが多くなったようだ。声が良く出るようになった。

#3 5 分離時あっさりとしていたので、Thの方があけにとられた感じ。Yの遊びの変化に着いて行けなかった。言葉かけに対する理解が、深まった様に思った。自然な形で目が合うようになったが、Yの気分には左右されている場合が多い。

以上に示した全35回を、表-1と同様に5つの時期に分け、治療的関わり・Thの実感・自我発達という3つの視点から表-4にまとめた。

第1期には、Yは自他の区別がない混沌とした状態にあったと考えられ、Thは通じあえないという空しさを感じていた。

第2期には、YはThとの共性状態にあり、その共性の中でYとThとは感覚レベルでの通じあいが可能となった。

第3期には、玩具を通して三項関係が持てるようになり、YとThとの関係は安定し、Thは今までは違った形でのつながりが持て、それが自信へとつながっていったと考えられる。

第4期には、Yの哺乳瓶を持ちたり寝転んだりするなどの退行が見られ、自己の身体像が獲得されたと考えられる。よって、今までのように通じあえないということからくる距離ではなく、自己と他者が区別され始めたことによる距離に、安心感を持てたのだろう。

第5期には、やりとり関係が持てるようになり、母子分離時にもパニックとはならなかった。しっかりとした

一個の自我として、YがThの心の中に入ってきたことによりYの成長ぶりを感じた。

以上、5期に分類してその経過を考察した。自我発達の過程は、共同性の上に成立しているやりとり関係の中で他者性とその反作用である自己性を意識していくものである。

Yの自我が発達するにつれて、Thとの関係の質も変化し感情による交流も生じた。Yの自我が発達すると、Thとの関係が変化し、それによりThの感じ方も変わってきた。このことは、自我の発達をとらえる際に他者(治療者)の実感が1つの指標となりうることを示唆している。

以上のことから、自閉症児に対する心理療法過程をとらえる場合、その自我発達の推移を、1. 児の行動および2. 児と治療者の関係から分析するだけでなく、3. 治療者自身の逆転移を含めた心の動きを見直すことも治療の流れを読んでいく上で、有効であり必要な要因と考えられる。

## 文 献

- 1) 中根晃：自閉症児の臨床—その治療と教育—，岩崎学術出版社，1983。
- 2) 山中康裕：早期幼児自閉症の分裂病論およびその治療論への試み「分裂病の精神病理5」P147～192，東大学術出版社，1976。
- 3) 平野信喜・高木俊一郎：自閉症，福村出版刊，1984。
- 4) 精神薄弱児童園施設つくも幼児教室編：「自閉を開く」，風媒社，1984。
- 5) 梅津耕作：自閉児の行動評定，金子書房，1982。
- 6) 柏木恵子：自己の発達，東京大学出版会，1983。
- 7) Frances Tustin：The Protective Shell in children and Adults，Karnac Books，1990。
- 8) M. デービス・D. ウォールブリッジ，(前田陽子・岡田守弘・串田実訳，猪股丈二監訳)：情緒発達における境界と空間—ウィニコット理論入門—，星和書店，1984。
- 9) 伊藤良子：自閉症児の〈見ること〉の意味，日本臨床心理学会Vol.1 No.2 p44～56，1984。
- 10) 李敏子：自閉症治療における治療者の〈エコー〉と〈鏡映〉，日本心理臨床学研究Vol.8 No.1 p26～37，1990。
- 11) 若林慎一郎：自閉症児の発達，岩崎学術出版社，1984。
- 12) 麻生武：自己意識の成長，児童心理学の進歩，金子書房，1985。

- 13) 松島恭子・下方知子：「自閉症男児の遊戯療法」，発達・療育研究，Vol.6, P3～17, 1990
- 14) 佐藤文子：Des Lauriersの自閉症研究－神経生理学的モデルによる自閉症の病因論と治療論を中心に－，臨床心理学研究Vol.9 No.4 P241～249, 1971.
- 15) 谷村寛：自己と他者の発生－ワロンから何を学ぶか－，自己意識の発達心理学，金子書房，1989.
- 16) 秦野悦子：否定の始まり（1），教心26回総会論文集P192～193, 1984.
- 17) 高橋哲郎：子どもの心と精神病理－力動精神医学の臨床－，岩崎学術出版社，1987.
- 18) 岡本夏木：子どもとことば，岩波書店，1989.

## 要 約

早期小児自閉症は、1943年にKannerが最初に記述した。彼らは、視覚刺激・聴覚刺激に対する反応が異常で、言語発達に何らかの問題を有する等の特徴を持っている。

自閉症と診断された2才男児との遊戯療法に関して、事例研究を行った。全35回の経過を通して、遊びや行動、他者との関わり方にはかなりの変化が見られた。一方、高感覚的行動や発声言語については、形の変化は見られたものの改善は望めなかった。

治療者は、基本的には付き従う絶対的受容の態度を取りつつ、本児の自我発達の程度に応じた動きかけや言葉かけを増やしていった。この過程を通じて、治療者と本児との間には、感覚レベルの交流から感情レベルの交流への変化が見られた。

（平成3年10月11日受理）

## Summary

In this report, we are presented a case study by playtherapy for a two-year-old boy who was diagnosed as autism.

He was the early infantile autism which was reported first by Kanner in 1943. Autistic children have the following feature; the abnormal reaction to stimuli of the sense of sight and auditory and they have some problems of the communication development, and so on. During the playtherapy of thirty-five sessions, we recognized that his behavior and relation with the therapist were changing considerably with the therapist's receptive attitude. The therapist increased appealing and speaking to him according to his degree of ego development. In this process, we find that the playtherapy had effect to his personality development.